【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（小・中）

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校

1　前年度 評価結果の概要	・学力向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の更なる充実を目指す。 ・道徳教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・業務改善・働き方改革・・・・・・・・・・・・・・・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
2　学校教育目標	**学ぶことは楽しいことだと実感し、夢や志をもち、意欲的に取り組む児童の育成**
3　本年度の重点目標	**【志】 夢いっぱい、志をもってがんばる子ども** **【知】 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども** **【徳】 元気いっぱい、優しい子ども** **【体】 元気いっぱい、たくましい子ども**

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○『めあて』と『まとめ』、『振り返り』を通じて、理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができている」と回答した教師80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3　Vol.1」を踏まえ、「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定する。	B	・「めあて」「まとめ」「振り返り」の3つに焦点をあて、授業実践を行っている。しかし、1時間の授業の中で「振り返り」の時間が確保できない場合もあり、学んだことを自覚させたり次の学習につなげたりできるように全校で共通実践を行う必要がある。	A	・教師アンケートで『『めあて』と『まとめ』、『振り返り』を通じて、理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができている」と回答した割合は100%で、児童は94%であった。次年度は更に、校内研究と関連させながら、学力向上に向けての授業改善を図っていく必要がある。	A	・教職員アンケートで１００%の回答を得ており、意識の高さがうかがえる。 ・「理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができない」と回答した６%の児童への対応が必要である。一人一人の実態に沿った指導が大切である。	指導方法改善担当（松永） 学力向上コーディネーター（桑原）
	○ICTを活用した教育の推進 ・1人1台端末を活用した授業改善	○教師のICT機器の利用率90%以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間を設け、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた1人1台端末活用事例を増やし、実践に生かす。	A	・教師のICT機器の利用は日常的にできている。それぞれが新しいアプリの利用などを試み、周りの職員に使用方法などを共有している。 ・めあてを子どもたちに考えさせる学級もある。ICTの活用により、他者参照がしやすい状況を作っている。	A	・教師アンケートで、日常的なICT機器の利用が「できている」と答えた教師は91%であった。 ・1人1台端末の活用については、発達段階に応じた創意工夫が見られた。次年度も活用例について積極的に情報交換をしていきたい。	A	・リーディングDX事業の研究発表を2回実施し、市内はもとより県内外の教育の先進的役割を十分に果たしている。 ・一人一人の児童のつまずきをICTを使って把握できるとのこと。その成果に期待している。	研究主任（小林） 教育情報化推進リーダー（松田）
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90%以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	B	・どの学年も、計画的に週1時間道徳の授業を実施できている。内容項目については、職員に向けた道徳通信で伝えている。 ・道徳のワークシートや、キャリアパスポートなどの行事の振り返りを教室に掲示している。	A	・教師アンケートで、「児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている」と回答した割合は95%で、保護者アンケートにおいては92%であった。 ・児童の心を育む道徳の環境づくりについては、各学級で取組内容に差が見られた。OJTや道徳通信などを通して共通理解しながら、よりよい内容に工夫したい。	A	・道徳教材を通して、人を大切にしなければならないという気持ちを、今後も育んでいってもらいたい。	道徳教育推進教員（福田） 前年度　　〃　　（今川）
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○ 学校で安心して楽しく過ごせているという保護者の割合90%以上	・月に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	B	・毎週水曜日に「気になる子」を担任や級外から報告し、その子に対する対応を考えていった。長期にわたって対応が必要な子どもについては、ケース会議を開き、具体的な支援について話し合い、学校全体で支援にあたっている。 ・いじめに関する事案では、迅速に対策会議を開き、早期に且つ全職員で共通理解を持った。また、担任を中心に、対象児童・児童の保護者と話し合いをもち、全職員で対応していった。	A	・保護者アンケートで「子どもが安心して楽しく学校に通っている」と回答した保護者の割合は93%であった。いじめ事案に対しては、迅速に対応し、全職員で共通理解を図ながら対応ができた。次年度も全職員の共通理解を図り、長期にわたって対応が必要な子どもについては、ケース会議で協議しながらチーム学校で支援を行っていきたい。	A	・深刻ないじめ事案は発生していないようで、先生方の平素の指導のおかげと感じる。 ・学校が安心できる楽しい場所であることは、とても大切なことである。何十年後、同窓会などの集まりで、笑って懐かしむ話題がたくさんある小学校時代であることを望んでいる。	人権・同和教育担当（秀島・松田） 生徒指導主任（井手）
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・「キャリア・パスポート」を活用し、学校生活の中であてを持ったり振り返りを行ったりして自己評価を行い、主体的に学びに向かうためやり抜く力を育成する。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践する。	B	・各学級で、行事や学期末に「キャリアパスポート」を活用し、振り返りから目標をたてさせるなど、その後のことまで考えた指導を適宜行っている。 ・体験活動に限らず、授業でも単元計画を始めに提示し、見通しをもった学びができるようにしている。振り返りの内容の質も高めるよう、各学年で取り組んでいる。今後も続けて、更に力をつけていきたい。 ・全校朝会等の教師からの発信する生徒指導のほかにも、児童が主催する代表委員会でも、生徒指導の面での話し合いをするなど、教育活動全体で取り組んでいる。	A	・児童アンケートで「先生は良いところを認めてくれている」と回答した児童の割合は91%、「授業で、めあてをもって学習している」と回答した児童の割合は94%、「将来の夢をもっている」と回答した児童の割合は82%であった。 ・学習面、生活面ともに約9割の児童が目標を意識しながら生活できている。次年度も、各学級で一日の生活目標を立てたり、キャリアパスポートを活用したりして目標や振り返りのできる取り組みを継続したい。	A	・児童一人一人が学校生活で満たされている様子がうかがえる。 ・9割の児童が「目標を意識しながら生活できている」とのアンケート結果に疑問を感じた。	特活主任（吉永） 各学級担任
●健康・体つくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童100%	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	A	・学校便りなどを通じて基本的な生活習慣の習慣化についての啓発を行うことができた。 ・年間指導計画を意識した指導を行うことにより、指導目標の実現に向けて指導を行うことができた。	B	・児童アンケートでは、「早寝、早起き、朝ご飯等の生活習慣が身についている」と回答した児童の割合が79%、「健康に食事は大切である」と考える児童の割合は97%だった。 ・学級指導や学校便りを通した健康啓発や、栄養教諭と協力した食育の授業を充実させる必要がある。	B	・望ましい生活習慣に向けて、学校としてどこまで踏み込めるか課題が多いが、保護者や育友会との更なる連携を進めていく必要がある。 ・登校時に「寝坊して朝ご飯を食べていない」という子どもがいるので、保護者への啓発が必要である。 ・小学生の視力低下の問題（ゲーム等の問題を含めて）が言われる。眼科医の講座も取り入れてみてはどうか。	食育担当（浦川） 養護教諭（原）
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師85%以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	A	・委員会の児童を中心に、本校の体力の課題について考えさせることができた。課題から、体力向上を啓発するスポーツイベントを実施することができた。より多くの機会に運動の大切さを啓発できるようにしたい。	A	・教師アンケートで「体力向上に関する児童一人一人の学びを充実させた」と回答した教師の割合は86%であった。スポーツフェスタを行い、運動を行うことの心地よさに触れる機会が設定できた。校庭で運動している児童も多い。 ・新体力テストを全校で実施し、その結果を各家庭に配布することで児童の体力状況への啓発が行えた。	A	・朝から運動場で元気に遊んでいる児童がとても多い。これからも、そのような姿を見れる学校であってほしい。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85%以上	・毎週金曜日に定期退勤日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。	B	・9月までの超過勤務時間の平均は34：09時間である。しかし、超過勤務の平均が40時間以内だった職員の割合は36．6%で個人差が非常に大きい。また、定時退勤の達成率も7割にとどまっている。	B	・超過勤務の平均が40時間以内だった職員の割合は67%であった。定時退勤の達成率も7割にとどまっている。放課後の事務処理時間の確保、勤務時間外の打合せや会議の在り方を改善する必要がある。	B	・学校や教職員自身の力だけでは改善しづらい課題である。 ・定時退勤ができるようになるよう願っている。	教頭・事務長
	○働き方改革の本質の徹底	○行事や会議の削減・凝縮や、家庭・地域からの協力などにより、児童と向き合う時間が増えた教員85%以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減・凝縮し、児童と向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。	B	・行事や会議、研修会の削減・凝縮、通知表の見直し、家庭・地域からの協力などにより、児童と向き合う時間が増えたと回答した教員は83%である。さらに計画的・組織的な環境作りへの手立てが必要である。	A	・教師アンケートで「児童と向き合う時間が増えた」と回答した教員が86%であった。特に通知表の見直しは効果的だった。次年度に向けて、校時程の見直しや教員の昼休みの時間確保についてもさらに検討したい。	A	・学校のみで解決できる問題ではない。社会が変わっていく必要がある。	教頭・事務長

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実と拡散	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にした相談活動を充実させる。情報交換により児童理解ができたと回答した教師を80%にする。	・計画的、定期的に会議（支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等）を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	B	・気になる子についての報告、支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告等を、計画的・定期的に実施し、児童の実態把握に努めた。関係機関との連携を協議し、医療やスクールカウンセラー・福祉機関との支援体制を構築することができた。 ・夏季休業中に、スクールカウンセラーによる研修会を実施した。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査は、2月実施の予定である。	A	・教師アンケートで「児童理解が図れた」と回答した教師の割合は94%であった。また、保護者アンケートで「先生は、保護者からの相談に丁寧に接している」と回答した保護者の割合は95%であった。 ・報告会や支援会議等を計画的・定期的に実施し、外部関係機関と連携しながら、必要な支援ができた。	A	・個に応じた教育は不易の部分だが、職員の特別支援教育に関する資質向上にも努めてもらいたい。	特別支援教育部
◎防災教育の充実	○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が80%以上 ②水難危険個所等の防災上重要な箇所の職員による把握が100% ③大雨や台風等における児童の下校体制の充実	・月に1回の緊急放送訓練の実施(児童向け) ・全校朝会での防災に関する説話(児童向け) ・佐賀豪雨に関する写真などの掲示 ・危険個所の把握に関する研修・実地確認（職員向け） ・大雨や台風等における児童の下校体制のマニュアル化	B	・緊急放送に対する児童の反応は徐々に良くなっている。 ・不審者対応避難訓練の実施や、水害に関する説話の実施で、防災に対する意識は向上した。 ・12月には地震火災避難訓練を予定しており、自助共助の大切さを伝える。 ・これからは火災多発期にも入るので、火気の取り扱いについて指導の必要がある。	A	・児童アンケートでは、避難訓練時の「お・か・し・も」の達成率は98%であった。また、職員による水難危険個所の把握率は100%であった。 ・災害時における下校体制については、職員を対象とした研修を実施して武雄小校区内の危険個所を把握するとともに、次年度、梅雨に入る前に保護者を含めた下校訓練を実施したい。	A	・6年生は防災キャンプを行い、「防災」というキーワードへの関心が深まっている。 ・災害時の下校体制確立については、大いに賛成である。	生活部
○地域連携による共育	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○地域の力や官民一体型学校のよさを活用して、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャー活用、花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用（地域との連携）	A	・花まるタイムでの地域の方との交流が9月より再開し、毎週火曜日の朝、来校していただき全クラスに入っていただいている。まる付けや励ましの言葉をいただき良い交流の場となっている。7月に行った児童アンケートでは、「できた喜び」（達成感）を感じている児童が88.5%であった。 ・授業におけるゲストティーチャーの活用が可能となり、計画的に取り組みができた。	A	・児童アンケートでは、「地域の方が参加してくださる授業や花まるタイムが楽しい」と回答した児童の割合が89%であった。保護者アンケートでは、「官民一体型のよさを活用した学習の機会をつくることに努めている」と回答した保護者の割合は94%であった。次年度も町公民館や市役所などと連携して地域人材の確保と活動の定着を図っていきたい。	A	・町民運動会、公民館祭りなどに関し、先生方に協力いただいた。先生方の姿勢に頭が下がる。 ・「おかしも」だけでなく「ち」（近づかない）もの実施してほしい。 ・子どもたちと楽しく花植えや花まるタイムに取り組んでいる。今後も継続してほしい。 ・花まるタイムでは、児童とのつながりができるのが良い。 ・放課後学級の必要性を検討したい。	松永、諸岡、教頭

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力向上…一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。端末の活用により、一人一人のつまずきを把握して、個に応じた指導・支援の充実を図る。 ・望ましい生活習慣…家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。年間計画に基づく食育指導や、啓発のためのお便り、ゲームへの取り組ませ方などに関する講演会等を充実させる。 ・特別支援教育…すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、児童理解を深めたり、保護者の対応をしたり、関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。 ・業務改善・働き方改革…それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。定時退勤日の推奨をする。